

**水性サーモジン  
耐熱断熱塗料  
製品説明書**

作成日2019年 9月27日  
東京熱化学工業株式会社

1. 適用範囲 この製品説明書は、以下の記載された項目について適用する。

塗料名	水性サーモジンA2101 BK02S(下塗) 及び水性サーモジンA1601 GR01S(上塗)
系統	水性1液型耐熱樹脂塗料
色調	A2101 BK02S:黒色 A1601 GR01S:灰色
適応温度	100℃

\* 有機則、特化則フリー

2. 塗料性状

水性サーモジンA1601 GR01S(上塗)

項目	塗料性状	備考
外観	灰色ムース	
加熱残分	62±5%	180℃×20分

水性サーモジンA2101 BK02S(下塗)

項目	塗料性状	備考
外観	黒色液体	
粘度	65KU以上	ストーマー粘度計/25℃
密度	1.10±0.05	g/cm <sup>3</sup> /25℃
加熱残分	40±5%	180℃×20分

値は一般値であり、規格値ではありません。

3. 塗装仕様(ローラー)

工程	塗料名	塗装方法	希釈剤・希釈率 (重量比)	標準塗布量 (g/m <sup>2</sup> /回)	標準膜厚 (μm/回)	塗装間隔 (20℃)
1	A2101 BK02S	スモールローラー (水性用)	水道水 0~10%	50以上	20以上	2時間以上 7日以内
2	A1601 GR01S		水道水 0~10%	1000以上	1000以上	—
3	乾燥	20℃ 24時間以上				

適応素材:SPCC-SD等

素地調整:錆、劣化塗膜、油脂等の汚れが付着している場合、サンダー、サンドペーパー、シンナー等で除去して下さい。

塗布量と膜厚…上記の塗布量および膜厚は、一般的な条件での参考値です。

被塗物の形状や塗装条件などによって増減することがあります。

#### 4. 塗膜一般特性

##### 試験片作製条件

塗料名	素材	下地処理	塗装方法	目標膜厚	焼成方法
下塗:A2101 BK02S	SPCC-SD (150×70×1 <sup>1</sup> )mm	溶剤脱脂	ローラー塗	1000 μm	なし
上塗:A1601 GR01S					

##### 塗膜一般特性

項目	試験結果	備考
1 密着性	100/100	JIS K 5400 8.5 に準拠
2 耐熱性	剥離なし	外観目視
	100/100	JIS K 5400 8.5 に準拠(200℃×100時間)

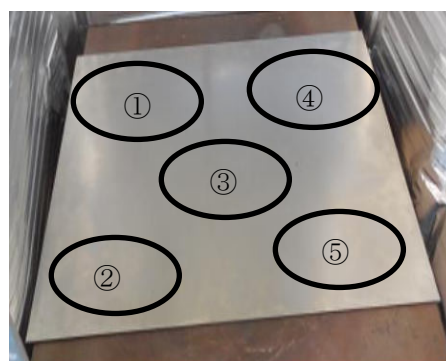
※この製品説明書は、耐熱性100℃の仕様条件です。

※耐熱性200℃でご使用の場合は、別途ご相談下さい。

#### 5. 断熱性

##### 断熱性試験方法

弊社オリジナル試験機、ニクロムヒーター上に試験板をのせて、30分後表面温度計で測定し、無塗装板と比較した。



##### 断熱性試験結果

項目	表面温度(℃)				
	①	②	③	④	⑤
無塗装板	73.6	68.1	71.8	67.3	60.4
水性サーモジン耐熱断熱塗料	51.1	50.3	50.2	50.0	48.0
差	22.5	17.8	21.6	17.3	12.4

#### 6. 塗料の表示、包装基準

- 1) 品名:(下塗)水性サーモジン A2101 BK02S 内容量:1kg、4kg、16kg  
品名:(上塗)水性サーモジン A1601 GR01S 内容量:1kg、4kg、14kg
- 2) 容器:(下塗)ポリエチレン製容器(1kg、4kg)、ハイブリット缶(16kg)  
容器:(上塗)PP製フルオープン型容器(1kg、4kg)、PE製フルオープン型プラペール缶(14kg)

## 7. 注意事項

- ・塗料使用時には、泡が発生しないよう配慮しながら均一になる様十分に攪拌しご使用下さい。
- ・塗装後の塗膜に不良がある場合、表面研磨を十分に行い再塗装して下さい。
- ・塗装時の雰囲気温度は、15～35℃を推奨します。
- ・作業時は通風し、マスクを着用して下さい。
- ・塗装終了後の使用器具は直ちに水洗いし、乾燥した塗膜や、洗浄しきれないものはラッカーシンナー等で洗浄して下さい。
- ・使用する「水」は必ず飲用可能な「水」を使用して下さい。工業用水や他の塗料の希釈剤を使用すると塗料劣化の原因となります。
- ・ゴミや埃などの混入防止、塗料成分の揮発抑制、塗料の皮張り防止の為、作業中及び作業後には必ず蓋をして下さい。
- ・塗料の危険有害性情報、取扱いはSDSを参考にして下さい。

## 8. 塗料の保管

- ・直射日光のあたらない場所で、5～35℃にて保管して下さい。
- ・温調設備を設置し夏期の液温を標準値として、年間を通じ液温変化の幅を小さくすることを推奨します。